

秀 賞



待ってる甲子園！

岩手県奥州市立水沢中学校

二年 佐々木 向日葵

世間では、様々な場面で男女平等が話題となりま
す。しかし、いたるところで平等性を感じられない
ことがあります。例えば、大相撲では、土俵の上に
女性が立つことができません。例え、来賓であつて
も同様です。現に数年前、土俵上で倒れた方を救助
しようと、見に来ていた看護師さん（女性）が土俵
に上がったところ、相撲関係者から「降りてくださ
い」などと促す声がありました。女性は人命救助
さえも許されないのでしょいか。これは、男女平等
といえるのでしょうか。

私は今、野球部に入り、男子と一緒に活動してい
ます。父や兄がやっていた影響もあり、小学校三年
生のときから野球を始めました。小学校六年生のと
きには、岩手県代表として、女子野球の全国大会に
出場しました。そこで初めて、こんなにたくさんの方
女の子が野球をやっているということを知りまし
た。他県のチームには、女子とは思えない速球を投
げたり、強くてするどい打球を外野まで飛ばしたり
する子がいっぱいいて、自分のレベルの低さを実感
しました。しかし、それが活力になり、私の野球魂を
熱くしてくれました。そのおかげで野球がもっと好
きになり、今、野球部で活動できていると思います。

そんな私には、憧れている舞台があります。それ
は、「甲子園」です。小学校低学年のころ、高校生の
兄の野球応援についていくことが多く、ルールも
よく分からないままでしたが、見ているのがとても
楽しかったのを覚えています。今となっては、野球
のおもしろさを知ったのはそのときだったと思いま
す。そして、兄が夏の予選で負けた後に見始めたの
が甲子園でした。各県の代表校の白熱した試合や、
テレビを見ているだけでも伝わってくる熱い思い、
「勝ちたい」という執念のプレーが私の胸に突き刺
さり、一瞬で甲子園のとりこになってしまいました。
この年から、甲子園は毎年欠かさず見るようになり、
私の楽しみの一つになりました。

そして、私自身が野球をやり始め、細かいルール
も分かってくるようになると、甲子園に憧れを抱く
ようになりました。小学校高学年の頃には、憧れが
夢へと変わり、「甲子園に出る」ということが私の
将来の夢といってもいいくらいになりました。しか
し、あの舞台には、どんなに努力しても、どんなに
一生懸命練習したとしても、女の子が立つてプレー
することは認められないのです。数年前には、監督
のノックの手伝いをする女子マネージャーさえも、
立つてはいけないといわれたほどです。「危険」「危
ない」など様々な理由がありますが、それは男子も
女子も一緒だと思います。なぜ、男子がよくて女子
がダメなのか不思議に思うし、不公平だと思います。
高校生になれば、男女の体格の差や力の差がはつき
りするのも分かります。でも、それを分かっている
からもっと頑張るだろうし、たくさん努力もするは
ずです。それなのに、「女子はダメ」というような
きまりがあるのがとても許せません。性別がちがう
だけで立ちたい場所に立てない、やりたいところで
プレーできない、こんな社会は男女平等とはいえな

いと思います。

近年、少子化が進み、男子の野球の競技人口は減
りつつあるものの、女子の競技人口は増加傾向にあ
ります。私の女子野球の元チームメイトも、中学校
で野球部に入部して活動する人も増えてきました。
でも、やっぱり中学生になると野球を続ける道をあ
きらめてしまう人もいます。そのような人たちが、
中学生になっても大好きな野球を続けられるように
という願いを込めて、私の父は今年、中・高生が対
象の女子野球チームを設立しました。大好きな野球
を続けることができるし、野球部で活動している人
も、女子だけだから楽に、楽しんでプレーできて、
息抜きにもなると思うし、いいことだらけだと感じ
ています。そして、お互いに刺激し合い、ライバル
心を持って活動することで、男子に対する「負けた
くない」などの気持ちとはちがう強い気持ちが生ま
れ、それが個々の技術向上につながっていくと思い
ます。まだ、女子の野球チームは少なく、中学生以
上の女子が野球をできる環境は、そう多くはないで
す。その環境づくりも、甲子園出場に近づくための
一歩だと思っています。

野球をしている女の子は誰だって、甲子園を目指
しているはずです。どんなに必死に訴えても、何回
叫んでも届かないかもしれない。でも、必ず出ら
れると信じ、これからも頑張っていこうと思います。

絶対、あの場所に立つてみせる。だから、
「待ってる甲子園！」。